

## 枕崎市桜馬場地区農産物生産出荷協議会

【住所】鹿児島県枕崎市

【代表者】天達 勇

【組織形態】任意組織

【構成員】男性23人 女性16人

【活動開始年月】平成16年12月

【現在の活動内容】農産物(野菜、果樹等)の生産・販売、  
イベント参加による地産地消のPR等

### 【活動を始めたきっかけ、経緯】

同協議会は、農林水産省「都市・農山漁村いきいきシニア活動促進事業」により、高齢者活動及び地域活動の活性化や、農業生産条件と環境整備を推進するモデル地区として選定され、桜馬場地区内5集落の高齢者グループが中心となり、平成16年12月から活動している。

発足にあたっては、活動実績のある桜馬場地区むらづくり委員会と同市、JAや普及センター等の関係機関が連携して行ったアンケート調査を参考に、農産物の生産・販売活動に関する検討・協議を重ね、高齢者を対象とした栽培技術研修会や講習会等を開催し、生産技術の取得と定着を図った。

17年1月、「自分たちの作ったものを地元の人へ提供したい」との思いから、JAの協力を得て、地元Aコープ店内でインショップ形式による農産物販売を開始した。

店頭スペースを借りて運営する販売形式は、会員各自が責任をもって、生産から搬入、商品タグの貼付及び陳列を行い、常に年間を通して、旬を先取りした新鮮な野菜を提供している。また、パネルを利用した生産者の紹介や、消費者ニーズに合った包装(少量パック、加工用増量パック)を行うなど、消費者の立場に立った販売方法を工夫・実践し、常に充実した品揃えになっており、利用者から好評を得ている。

### 【活動の効果】

少量多品目の野菜を地元で生産・販売することで、消費者ニーズにも対応することができたため人気も定着しており、会員においては生産者としての自信と充実感、更にはやりがいと生産意欲の向上につながっている。

発足当時27人だった会員は、周辺地区からの高齢農業者の参加を加え、現在では39人となり、販売実績も、3年目となる19年末には当初売上げの2倍近い実績となっている。



設立総会風景



出店当初の陳列風景

### 【若い世代との役割分担等】

特になし

### 【これまで苦労したこと、その解決手法及び今後の課題】

地勢上、台風や高温、小雨障害などの気象災害が発生しやすく、露地野菜が主のため、緊急的な対応には体力的・コスト的に難しい面がある。

出荷時期が重なった場合の余剰野菜の利用として、漬け物等の加工部門への取組も一時検討したものの、衛生面における保健所等での手続きの煩雑さやリーダー的人材の不在により、現時点では実現が難しくなっている。今後、人材の育成・確保やそのために協議する場が必要である。

### 【今後の展開方向】

高齢者、女性でも管理が容易な、施設野菜用のビニールハウスやかん水装置等共同利用できる設備の整備や充実を検討したい。

退職後に農業を始めた会員も多いことから、Uターン者はもとより、集落外からの新規参入者の受入体制の整備・充実等、関係機関と連携して持続力のある農業を展開し、担い手育成・後継者不足の解消に向けた取組が必要である。

健康の維持・管理を徹底することにより、生涯現役の農業経営を目指したい。

今以上に品質にこだわった農業を実践し、地域に密着した安全で消費者に信頼される農業の定着を図る。



二周年記念イベントでの販売



調整研修の様子

【情報収集官署名】九州農政局 鹿児島農政事務所 南さつま統計・情報センター

(電)0993-53-2360